

## 第三次所沢市市民医療センター改革プラン令和4年度実施状況点検・評価報告書

- 1 第三次所沢市市民医療センター改革プランは、平成29年3月、平成29年度から令和2年度までの経営に係る計画として、策定いたしました。

しかしながら、令和2年度において、新型コロナウイルス感染症が拡大し、その対応を最優先するとともに、状況が大きく変化したことから、同プランを令和4年度まで延長し、令和3年度、4年度の目標値を設定しています。

今回は、令和4年度の実績をもとに、下記評価区分により、評価を行っています。

評価区分	内容	判断基準・評価の視点
A	目標達成	目標が達成できている。 目標達成に向けて成果が出ている。
B	目標をほぼ達成	目標がほぼ達成できている。 前年度の取組内容から改善・充実が図れている。
C	現状維持、取り組みを実施中	ある程度成果は出ているが、目標を下回っている。 前年度に引き続き取り組みを実施している。
D	目標を達成していない	成果が出ず、目標を大幅に下回っている。
E	未実施又は達成割合が非常に低い	未実施。 目標達成に向けた効果が認められない。 課題の解決に至っていない。

2 (1) 経営指標に係る数値目標

① 収支改善に係るもの

年度		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
経常収支比率 (%)	目標値		97.6	99.3	103.3	103.6	103.6	103.6
	実績	96.9	95.3	97.6	98.3	110.3	95.6	109.7
	達成率 (%)		97.6	98.3	95.2	106.5	92.3	105.9
	経常収益に占める一般会計からの繰入金割合 (%)、金額)	20.9 (%) 366,640 (千円)	20.7 (%) 366,358 (千円)	21.5 (%) 383,680 (千円)	21.2 (%) 392,418 (千円)	46.2 (%) 933,017 (千円)	21.4 (%) 393,320 (千円)	29.0 (%) 599,313 (千円)
	実施状況	経営の健全性を示す経常収支比率は、医業収益が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により小児科、内科ともに発熱外来患者が増えたことや、入院患者、人間ドック受診者等も増えたことにより増加し、医業外収益も、一般会計からの繰入金が増となったことにより増加したことから、100%を上回りました。						
年度		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
医業収支比率 (%)	目標値		77.8	79.3	83.8	84.1	84.1	84.1
	実績	76.5	75.6	77.0	77.7	59.2	74.8	78.0
	達成率 (%)		97.0	97.0	92.6	70.3	88.9	92.7
	実施状況	医業収支比率は、医業収益の増加により前年比 3.2 ポイントのプラスとなりました。目標値には達していませんが、78.0%は過去7年間で最も高い数値です。						

【実績値の算出方法】

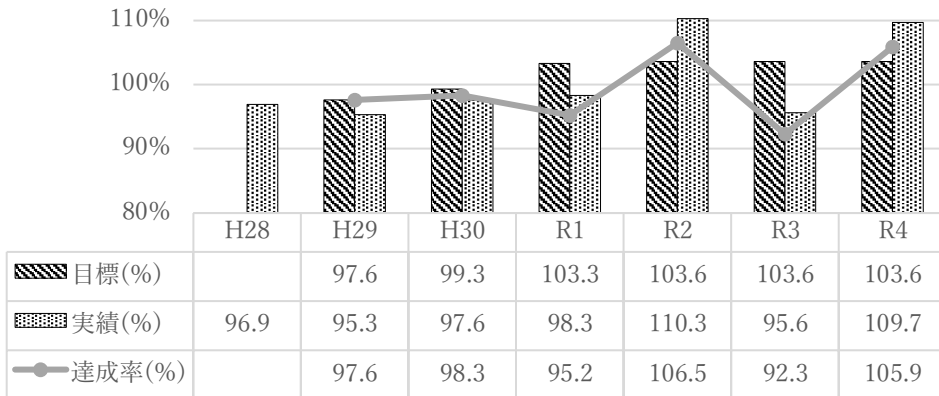
$$\text{経常収支比率} = \left( \frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \right) \times 100$$

$$\frac{2,063,377,641 \text{ 円}}{\text{医業収益} + \text{医業外収益}} \quad \frac{1,881,170,905 \text{ 円}}{\text{医業費用} + \text{医業外費用}}$$

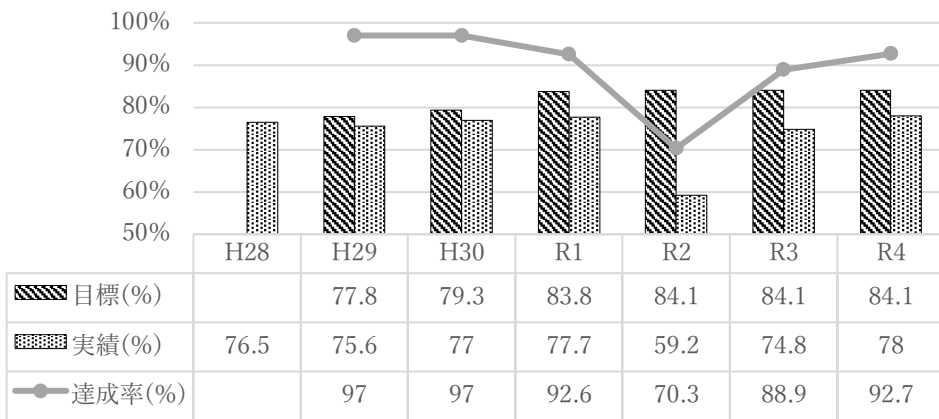
$$\text{医業収支比率} = \left( \frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \right) \times 100$$

$$\frac{1,427,520,858 \text{ 円}}{\quad} \quad \frac{1,829,886,036 \text{ 円}}{\quad}$$

### 経常収支比率



### 医業収支比率



意見	評価
<p>経常収支比率は目標値を上回っているが、市からの繰入金によるところが大きく、医業収支比率も改善傾向にはあるものの目標値を下回っており、Cと評価する。目標値に達していない要因を詳しく分析して対応策を取るなど、医業収支比率のさらなる改善が求められる。</p>	C

② 経費削減に係るもの

年度		平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4
項目		年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
職員給与 費比率 (%)	目標値		72.8	74.2	70.3	69.8	69.8	69.8
	実績	75.3	74.7	76.2	75.0	97.7	76.3	75.8
	目標値 との差		△1.9 <sup>ポイ</sup>	△2 <sup>ポイ</sup>	△4.7 <sup>ポイ</sup>	△27.9 <sup>ポイ</sup>	△6.5 <sup>ポイ</sup>	△6 <sup>ポイ</sup>
	実施状 況	医業収益は増加しましたが、給与費も常勤医師の病気休暇取得に伴って非常勤医師への報酬が増えたことなどにより増加し、結果として職員給与比率はほぼ横ばいとなりました。						
年度		平成 28	平成 29	平成 30	令和 元	令和 2	令和 3	令和 4
項目		年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
後発医薬 品使用率 (%)	目標値		71.0	74.0	77.0	80.0	80.0	80.0
	実績	70.1	78.1	81.2	83.7	83.4	87.3	89.0
	達成率 (%)		110.0	109.7	108.7	104.2	109.1	111.3
	実施状 況	後発医薬品使用率は、効率的な医薬品の使用について薬事委員会において審議し、採用薬の整理と後発医薬品へ切り替えを進めていることなどにより、目標値を達成しています。						

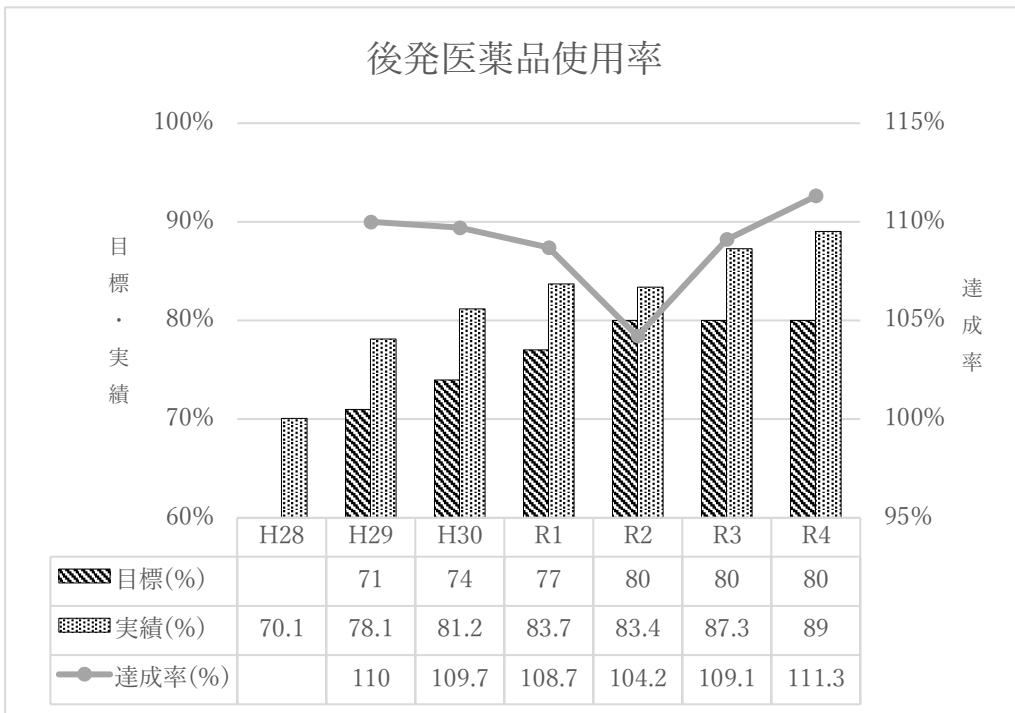
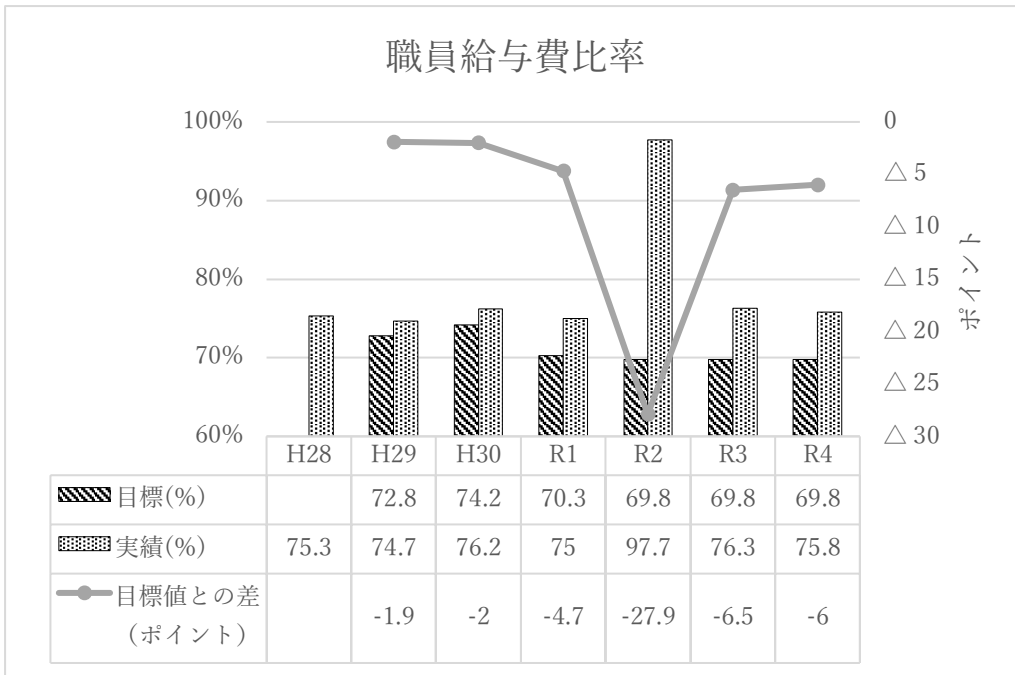
【実績値の算出方法】

$$\text{職員給与費比率} = \left( \frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \right) \times 100$$

$$= \left( \frac{1,081,493,073 \text{ 円}}{1,427,520,858 \text{ 円}} \right) \times 100$$

$$\text{後発医薬品使用率} = \frac{\text{後発医薬品の数量}}{(\text{後発医薬品ありの先発医薬品の数量} + \text{後発医薬品の数量})} \times 100$$

$$= \frac{201,461}{24,879 + 201,461} \times 100$$



意 見	評価
<p>後発医薬品使用率は目標値を上回っているが、職員給与費比率は改善傾向にあるものの目標値を下回っており、Cと評価する。</p> <p>職員給与費比率の低減に向けては、医療センターは医師以外の職種も多いことから、適正な人員配置などの取組みが必要である。</p> <p>後発医薬品使用率は目標値を達成し、さらに改善傾向にあり、良好である。</p>	C

③収入確保に係るもの

項目		年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
1日あたり入院患者数(人)	目標値			26.0	27.0	33.0	36.0	36.0	36.0
	実績		24.1	24.0	23.7	28.9	23.0	26.4	27.8
	達成率(%)			92.3	87.8	87.6	63.9	73.3	77.2
	実施状況	新型コロナウイルス感染症に罹患したのち退院基準を満たした患者（アフターコロナ）の入院の受入れを含め、入院患者の受入れに努めたことにより、入院患者数が増加しました。							
項目		年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
病床利用率(%)	目標値			53.1	55.1	67.3	73.5	73.5	73.5
	実績		49.1	49.0	48.5	59.0	47.0	53.8	56.8
	達成率(%)			92.3	88.0	87.7	63.9	73.2	77.3
	実施状況	入院患者数の増加に伴い、病床利用率も上昇しました。目標値には到達していませんが、過去7年間では2番目に高い数値となりました。							
項目		年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
急性期病床平均在院日数(日) ※1、2、4	目標値			17.0	17.1	14.2	14.6	14.6	14.6
	実績		18.8	19.6	16.3	18.9	17.7	17.8	20.3
	目標値との差			2.6	△0.8	4.7	3.1	3.2	5.7
	実施状況	新型コロナウイルス感染症の感染拡大期において、医療機関や介護施設においてもクラスターが発生し、患者の入退院の調整がストップしたことや、アフターコロナ入院患者等により、在院延べ日数が長くなりました。							
項目		年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
地域包括ケア病床平均在院日数(日) ※3、4	目標値					36.5	33.9	21.0	21.0
	実績				18.1	18.3	20.1	15.9	16.1
	目標値との差					△18.2	△13.8	△5.1	△4.9
	実施状況	地域包括ケア病床平均在院日数は、目標値をクリアしています。在宅や介護施設で安心して生活できるよう、退院支援やリハビリを行いました。							

※1 日数が短い方が効率的な医療提供を行っているとは評価できる。

※2 年度実績（4月から3月までの合計）に基づき算出。

※3 地域包括ケア病床は平成30年11月から開始。

※4 短期滞在手術等基本料3（大腸ポリペクトミー）、保険外診療患者数を除いて算出。

【実績値の算出方法】

• 1日あたり入院患者数＝入院・在院患者延べ数÷365日

10,154人

• 病床利用率＝入院・在院患者延べ数÷（病床数×日数）×100

10,154人                      49床    365日

• 平均在院日数（急性期一般病床）

＝入院・在院患者延べ数÷{（新入院患者数＋退院患者数）÷2}

6,844人                      337人                      336人

• 平均在院日数（地域包括ケア病床）

＝入院・在院患者延べ数÷{（新入院患者数＋退院患者数）÷2}

2,456人                      161人                      144人

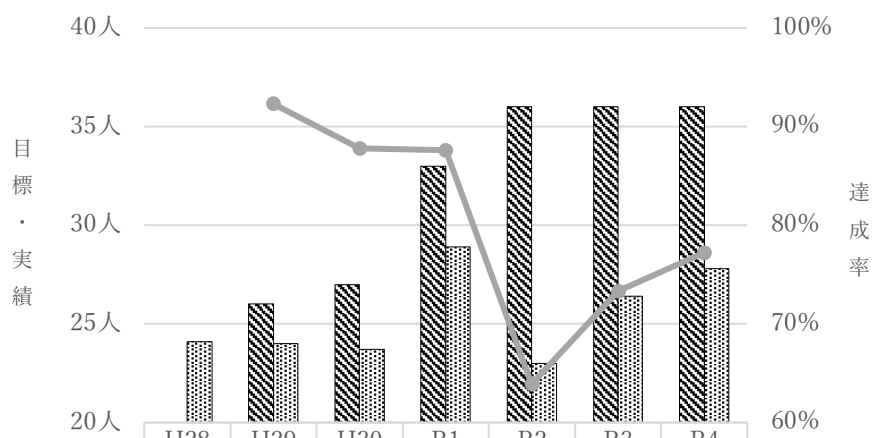
※平均在院日数の患者数は、保険外診療入院患者数等を控除した人数

◆ 実績値

	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	前年度比較
延べ患者数	8,400人	9,631人	10,154人	523人
新入院患者数	466人	577人	569人	△8人
退院患者数	497人	572人	564人	△8人
地域包括ケア 病床延患者数	2,457人	2,653人	2,708人	55人

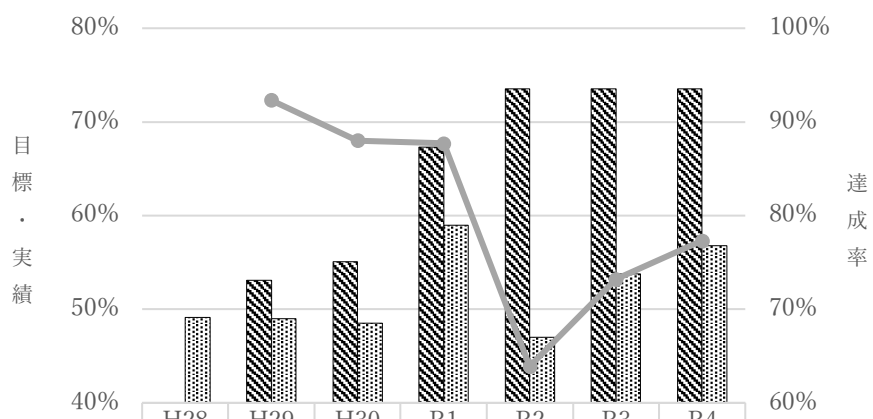
※1 入院病床49床中、地域包括ケア病床11床

### 1日あたり入院患者数(人)



	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標(人数)		26	27	33	36	36	36
実績(人数)	24.1	24	23.7	28.9	23	26.4	27.8
達成率(%)		92.3	87.8	87.6	63.9	73.3	77.2

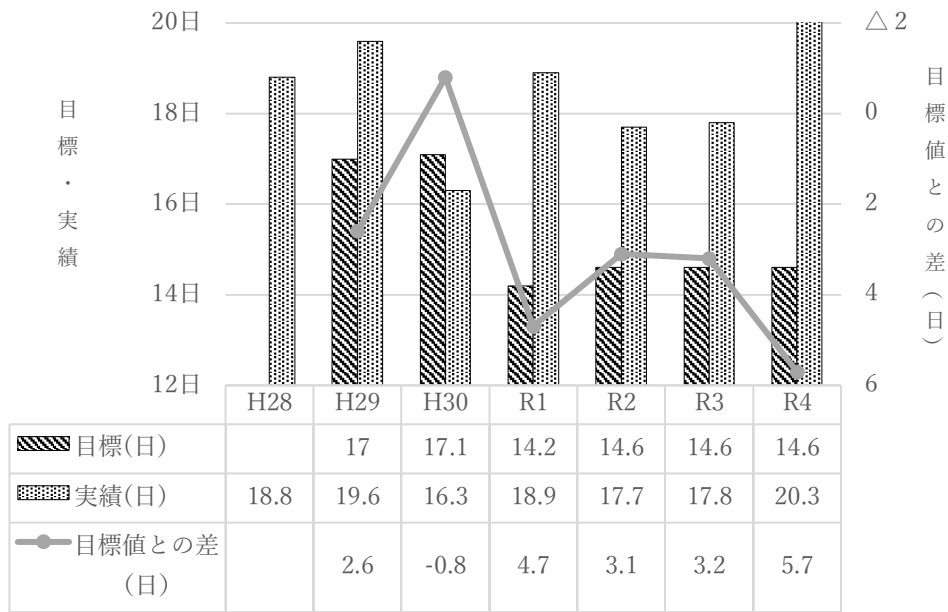
### 病床利用率



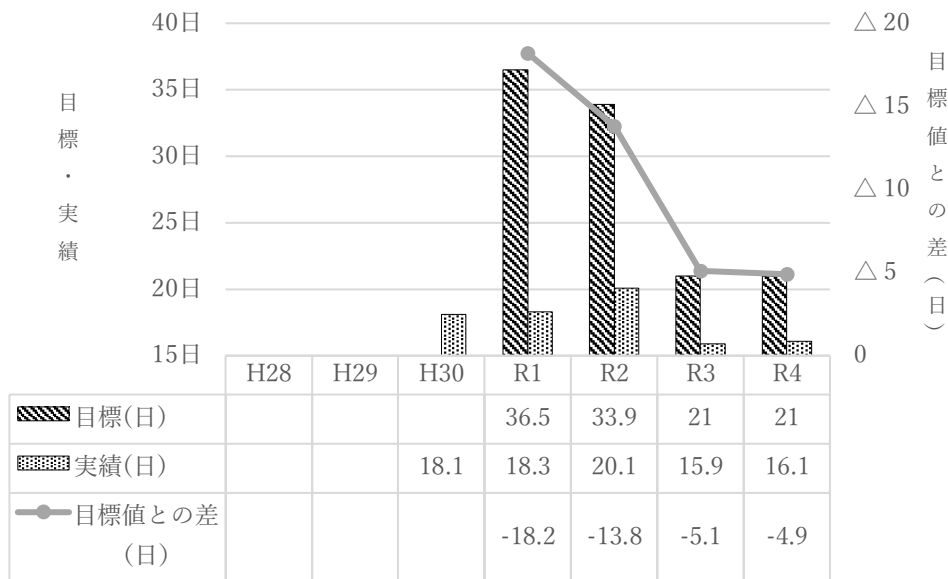
	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
目標(%)		53.1	55.1	67.3	73.5	73.5	73.5
実績(%)	49.1	49	48.5	59	47	53.8	56.8
達成率(%)		92.3	88	87.7	63.9	73.2	77.3



### 急性期病床平均在院日数



### 地域包括ケア病床平均在院日数



意見	評価
<p>1 日あたりの入院患者数・病床利用率は改善傾向にあるものの、目標値には達しておらず、Cと評価する。</p> <p>急性期病床や地域包括ケア病床の運用を見直すなど、収益確保につながる方法を検討すべきである。</p>	C

(2) 数値目標以外の取組状況

新型コロナウイルス感染症については、令和3年度に引き続き、発熱外来を継続しました。特に、令和4年7月中旬からは、小児の発熱患者が急増し、小児科発熱外来・小児急患診療において、積極的に発熱者の診療を受入れました。また、中和抗体薬の投与や経口薬の処方による治療や、退院基準を満たした患者の受け入れ可能な医療機関として、新型コロナウイルス感染症回復後、引き続き入院が必要な患者を受け入れました。

- ・発熱外来患者数 内科：2,579人 小児科：7,370人
- ・点滴・経口薬 30人
- ・アフターコロナ入院患者数 43人

医師等の人材の確保については、令和4年度末に内科医師の定年退職に備え、4月に内科医師を1名、令和3年度末に小児科医師の定年退職により、9月に小児科医師を採用いたしました。また、看護師については、看護師確保に向けた院内プロジェクトチームによる活動や、市人事部門との連携による採用活動の推進しております。

医療機器の計画的な導入については、主な機器として、耐用年数を経過し老朽化した「乳房X線撮影装置（マンモグラフィー）※1」や、「超音波画像診断装置※2」を導入しました。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、発熱外来の受診者及び発熱症状のある患者に対し、PCR検査を中心とした検査を実施していますが、感染拡大期においても、速やかに検査結果を判明できるように新たに「自動遺伝子解析装置※3」を導入し、検査体制を拡充しました。

参考 PCR検査、抗原検査件数

	院内 PCR	院外 PCR	抗原検査	計
R3	403	2,334	2,372	5,109
R4	2,423	582	10,149	13,154

※1 乳房X線撮影装置（マンモグラフィー）

乳房のX線撮影をする装置。

※2 超音波画像診断装置

内臓等を診断するために、超音波（エコー）を基に、対象物の内部の形状を画像に映し出す装置。

※3 自動遺伝子解析装置

PCR検査により、遺伝子を解析する装置。これにより、コロナ陽性・陰性を判断する。

意見	評価
<p>新型コロナウイルス感染症に対しては、地域の状況に応じて一定の役割を果たした。</p> <p>急速に変化する医療状況に迅速に対応するためには、それにふさわしいシステムや体制を作る必要がある。</p> <p>医師・看護師等の人材確保については、引き続き努力されたい。</p>	B

## 資料

## ○令和4年度病院事業収支状況

## 病院事業収益

円（税抜）

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
医業収益	1,049,641,882	1,401,652,923	1,427,520,858	25,867,935
（入院収益）	247,584,538	290,623,232	319,380,726	28,757,494
（外来収益）	476,022,331	590,195,165	595,847,025	5,651,860
（健康検診収益）	280,389,278	456,393,136	473,501,323	17,108,187
（その他医業収益）	45,645,735	64,441,390	38,791,784	△25,649,606
医業外収益	969,070,771	436,318,256	635,856,783	199,538,527
特別利益	19,198,680	21,883,307	24,541,717	2,658,410
計	2,037,911,333	1,859,854,486	2,087,919,358	228,064,872

## 病院事業費

円（税抜）

項目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
医業費用	1,774,363,729	1,873,001,911	1,829,886,036	△43,115,875
（給与費）	1,025,939,709	1,068,771,615	1,081,493,073	12,721,458
（材料費）	293,111,712	301,486,797	257,514,700	△43,972,097
（経費）	360,337,865	408,674,791	399,753,182	△8,921,609
（その他）	94,974,443	94,068,708	91,125,081	△2,943,627
医業外費用	55,044,233	49,095,661	51,284,869	2,189,208
特別損失	2,114,013	2,913,636	3,249,369	335,733
計	1,831,521,975	1,925,011,208	1,884,420,274	△40,590,934

○令和4年度病院事業 入院・外来・健康健診状況

人

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比較
入院	8,400	9,631	10,154	523
外来	25,996	35,975	42,731	6,756
(内科)	15,111	18,604	19,018	414
(小児科)	8,182	12,598	17,832	5,234
(内科救急)	32	50	39	△11
(小児夜間)	1,207	1,966	1,677	△289
(小児深夜)	518	833	859	26
(休日急患)	946	1,924	3,306	1,382
健康検診	19,895	31,230	31,697	467
計	54,291	76,836	84,582	7,746

